

## 文学研究科 日本語日本文学専攻【博士前期課程】におけるポリシーについて

本専攻は、古代中世文学・近世近代文学および日本語学の3研究分野を区分し、それぞれの研究を進めるとともに、専門関連科目として立てた日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論をも含め、これらを有機的に関連させて、新しい研究の視角を切り開こうとするところにねらいがある。

本学は、黒川文庫・正宗文庫などの多くの貴重図書を蔵して、開学以来、とりわけ古典研究に多くの業績をあげてきており、さらに最近では辞書学・方言学など日本語学関係図書を中心とする佐藤茂文庫を得ることによって、日本語学研究にも新領域を開く土台が築かれた。

### (1) 日本語日本文学専攻のアドミッション・ポリシーと入学前の指導

本専攻では、上の目的を達成させるために、古代中世文学分野、近世近代文学分野、日本語学分野に関わる専門的な知識を踏まえて研究能力を発揮し、自らのねらいに基づく個性的な研究課題に対して適切な方法論によって取り組むことで、新しい知見を得ようとする意欲的な学生を求める。また、本専攻では本学の建学の理念であるキリスト教精神を養いながら品格ある研究姿勢を育み、必要に応じては思想面でキリスト教思想に関する知識を研究に活用することも求めている。

本専攻での研究を志望する学生は、本専攻への入学前に研究指導を希望する教員と面接して指導を受け、自らの研究課題や達成目標に輪郭を与え、入学後の研究をスムーズに進めるための準備を行わなければならない。

### (2) 日本語日本文学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、古代中世文学分野に5科目、近世近代文学分野に5科目、日本語学分野に5科目、専門関連科目に3科目、計18科目をバランス良く配している。

古代中世文学分野では、上代より中世にいたる文学作品および作者を研究対象範囲として、物語・日記・和歌・歌論などをとりあげて、この時代の文学の展開の諸相を究明する。

近世近代文学分野では、近世より現代にいたる文学作品と作者を研究対象範囲として、小説および文学理論をとりあげて、多角的にこの時代の文学を追究する。

日本語学分野は、大きく分類すると、古代語と近代語の 2 領域を研究対象範囲とし、日本社会の言語行動および日本語表現について考察するとともに、通時・共時の多角度から、日本語の総合的な研究を目指す。

専門関連科目では、日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論を開講し、思想も本来、言語・文学と密接不可分の関係にあることに配慮している。

学生は、古代中世文学分野、近世近代文学分野、日本語学分野のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定して、その課題に関係のある科目を選択履修することで、研究課題に応じた着実な方法論による多角的・融合的な知識による最善のアプローチによって、新たな論の深化をめざすことができるよう配慮している。

### (3) 日本語日本文学専攻のディプロマ・ポリシー

本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めている。

- ・最初の計画発表会。2年次の第1期前半に行うもので、修士論文の概要とその一部を発表し、研究の意義と方法について確認し、修士論文の基盤を固めることができる。
- ・最終の中間発表会。2年次の秋に行うもので、修士論文全体の構成と内容について最終的な確認を行う。学生はこの場で、研究の達成度について評価を受け、論文提出の準備にとりかかる。
- ・提出後の口頭試問。主査1名と副査2名によって、審査を行う。

本専攻における学位論文は以上の手順を踏まえるとともに、学位寄贈ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

## 文学研究科 日本語日本文学専攻【博士後期課程】におけるポリシーについて

本課程は、後期3年の課程で、博士前期課程との連続性を重視した積み上げ方式であり、教育・研究の内容は、日本文学と日本語学の2研究分野を根幹として、これに関連分野を配した。

根幹をなす2研究分野は、特殊講義と研究指導の軸をなる課題研究とで構成する。特殊講義には、研究の対象、時代区分の枠をこえて研究総合化の核となる授業科目と、専門深化の指標となる授業科目とを設け、課題研究では、学位論文をまとめる者の個別的な研究指向に対応する研究指導を行い、論文完成についての責任を果たす。

### (1) 日本語日本文学専攻のアドミッション・ポリシーと入学前の指導

本課程は、修士課程設置に際して設定した目標を継続発展させ、高度な専門性を持つ職業人の育成を第一とし、あわせて、高度な研究能力・学識をもつ研究者の養成を目的とする。このため、専門研究の深化を図るとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問う、敏活柔軟な知性を養おうとする学生を求める。また、研究職・教育職をはじめとし、各種の専門職に幅広く適応し得る高度専門職業人たらしめる意欲的な学生を求めている。

本課程での研究を志望する学生は、本専攻への入学前に研究指導を希望する教員と面接して指導を受け、自らの研究課題や達成目標に輪郭を与え、入学後の研究をスムーズに進めるための準備を行わなければならない。

### (2) 日本語日本文学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、日本文学と日本語学の2研究分野を根幹として、これに関連分野を配しており、それぞれ次のように構成している。

日本文学研究分野の古代中世特殊講義及び近世近代文学特殊講義においては、日本文学を代表する和歌・物語と近世近代の小説を中心とする科目を核として、文芸学と文献学の両面から文学研究の方法について指導し、これに、文学史の時代区分を基準として各時代の作品研究の科目を配することによって、日本文学の幅広い知識の修得と、ジャ

ンル・作品に即した専門的研究が可能になるように配慮している。

日本語学研究分野の日本語学特殊講義においては、現代日本語の諸問題を幅広く追求し、これに、古代語の文字表現についての研究、未開拓資料を対象とする近代語研究など、多様な領域・対象を扱う科目を配することにより、さまざまな視点と方法による日本語の共時的、通時的研究を深めることができるように配慮している。

関連分野では、日本思想史・日本民俗史・和漢比較文学・キリスト教思想史に関する特殊講義を配している。なかでもカトリック系大学としての特色である宗教性と国際性を日本語日本文学研究に取り入れることに特色を持たせた。また、日本思想の基盤となった仏教思想と民俗宗教の研究は、日本語日本文学を深い視点から、和漢比較文学とキリスト教思想史の研究は、それをさらに広い視野から捉え直すために、貢献するところが大きいと考えている。

### (3) 日本語日本文学専攻のディプロマ・ポリシー

本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めている。

- ・専攻として年 3 回の研究発表会の機会を設けている。各学生の博士論文提出の目標年次にねらいを定めながら、計画に応じて、各回の発表の機会を利用し発表を行うことで、研究の意義と目標、現在の達成度と今後の見通し等について評価を受け、検討を加えることにより、着実に博士論文の全体構想を確認し完成度を高める。
- ・提出後の口頭試問。主査 1 名と副査 3 名によって、審査を行う。
- ・学会誌への投稿・掲載。学生は学位論文提出の時点までに、研究内容の一部を査読付きの学会誌に投稿・掲載し、自らの研究を公にして広く学的評価を受けておかなければならない。

本専攻における学位論文は以上の手順を踏まえるとともに、学位寄贈ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

## 文学研究科 英語英米文学専攻【修士課程】におけるポリシーについて

本専攻は、本学の教育理念を踏まえて、英語英米文学の思想的基盤であるキリスト教思想に通暁しつつ英語英米文学の高度な専門的研究を進めるとともに、広い視野をもって人間存在のあり方を問い、生きることの意義を追究する敏活柔軟な知性の育成を志し、研究職、教育職を初めとして各種の専門職に幅広く適応する人材の養成を目指している。

### (1) アドミッション・ポリシー

本専攻では、上記概要に示している教育目標に共鳴し、英語英米文学を専門的に研究しながら、国際的視野に立って広く国内外で活躍し、自己の人生を豊かにすると共に社会に貢献しようという意欲を持っている女性を求めている。

### (2) カリキュラム・ポリシー

本専攻のカリキュラムは、上記の教育目標を達成するために、専門研究分野としてはイギリス文学、アメリカ文学、英語学言語学の3研究分野をもって構成し、あわせてキリスト教思想に関する科目を専門関連科目として配置して、高度な専門性と人間存在の意義を追究できる広い視野に立つ編成を旨としている。

### (3) ディプロマ・ポリシー

上記の3専門研究分野それぞれの基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、これらの3研究分野の中で特に深く研究する分野での高度専門職業人としての基礎的問題解決能力を身につけていることを証明する修士論文の審査と、専門関連科目を含めて総合的に審査する最終試験に合格することによって修士（文学）の学位が授与される。

## 文学研究科 社会文化学専攻【修士課程】におけるポリシーについて

本専攻は、現代社会論と社会史の2研究分野から成る。それぞれの研究の深化、発展に努めるとともに、専門関連科目をも含め、それらを有機的に関連させ、新たな研究の地平を切り拓こうとする。

### (1) アドミッション・ポリシー

本専攻では次のような人材を求めている。

社会や文化に対する強い探究心等を持ち、社会現象を共時的、通時的にとらえる幅広い視野等を備え、研究者として自立した問題解決能力を獲得しようとするもの。

### (2) カリキュラム・ポリシー

人間社会の諸現象を考察するために、現代社会論と社会史の2研究分野を設ける。

現代社会論分野では、とくに地域社会・社会行動・人間形成・家族の諸領域について社会学的方法によって分析し、現代社会の構造や機能を明らかにしていく。

社会史分野では日本・アジア・ヨーロッパの3地域をそれぞれ対象とする社会史と、隣接する学問領域である民俗学および考古学によって、先史時代から現代に至る社会とその文化を考察する。

さらに専門関連科目として社会言語学・社会文学・文化人類学・社会倫理学の各特論を開講して、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

このようなカリキュラムにより社会と文化に対してトータルなアプローチを可能にする。

### (3) ディプロマ・ポリシー

上記の2研究分野それぞれの基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、作成した修士論文が審査に合格して、いずれかの特に深く研究する分野で高度専門職業人としての能力を身につけていることを証明し、さらに最終試験に合格すれば、修士（文学）の学位が授与される。

## 人間生活学研究科 人間複合科学専攻【博士後期課程】についてのポリシー

本専攻は、人間及び人間生活にかかわる諸問題を、多角的視座を保ちつつ考究し、多様な課題に対処しうる高度な学術研究を行うことを目的としています。そのために本専攻では、精神機能論、保健栄養論、生活文化論の 3 研究領域を設けて、広く人間の精神的・心理的諸問題、人間とその健康にかかわる諸問題、人間生活の社会的・文化的側面にかかわる諸問題の解決を目指し、必要な授業科目を配置しています。各研究領域とそれに連なる授業科目は密接に連携し、それぞれの研究領域や研究領域間における研究課題の開発を行い、学問研究への寄与を目指すとともに、当該領域における高度の専門能力を有した研究者、並びに専門行政官等の高度に専門的な業務に従事しうる人材の養成を目指しています。

### (1) 人間複合科学専攻のアドミッション・ポリシーと入学前の指導

本専攻では、上の目的を達成するために、精神機能論、保健栄養論、生活文化論にかかわる専門的な知識と研究能力をもつとともに、多様な研究課題に取り組むリサーチマインドをもった学生を求めます。また、本専攻では、学生に本学の建学の理念であるキリスト教に関する豊かな知識をもつことも求めています。

本専攻での研究を志望する学生は、本専攻への入学前に研究指導を希望する教員と面談して指導を受け、自らの研究課題や達成目標に輪郭を与え、入学後の研究をスムーズに進めるための準備を行わなければなりません。

### (2) 人間複合科学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、精神機能論領域に 8 科目、保健栄養論領域に 9 科目、生活文化論領域に 5 科目、計 22 科目の授業科目をバランスよく配しています。各授業科目は、それぞれの専門分野を包括する独立の教育・研究単位ですが、各々の研究領域やそれらを結んだ新たな研究領域の多様な研究課題に、多角的・融合的に対応することを可能にしています。また、キリスト教に関する理解を深めるための授業科目も用意されています。

学生は、精神機能論、保健栄養論、生活文化論のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定してその課題に関係のある科目 12 単位以上を、1 研究領域につき最低 1 科目、複数の研究領域から選んで履修することになります。研究指導には、主たる履修科目の担当教員（正研究指導担当教員）と他の履修科目の担当教員 2 名（副研究指導担当教員）が当たり、研究の深化と多角的視座の確保を担保しています。

### (3) 人間複合科学専攻のディプロマ・ポリシー

本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位

論文を作成して学位を得るために、次のような手順を定めています。

#### 中間評価

2年次の第1期に行うもので、研究の意義と目標、現在の達成度と今後の見通し等について審査を行います。学生はこれに合格して、研究を次の段階にすすめることができます。

#### 最終の中間発表

学位論文提出の4カ月前に行う研究発表で、研究内容についての最終的な確認を行います。学生はこの場で、研究の達成度について評価を受け、論文提出の準備にとりかかることになります。

#### 学会誌への投稿・掲載

学生は学位論文提出の時点までに、研究内容の一部を査読付きの学会誌に投稿・掲載し、自らの研究を公にして広く学的評価を受けておかなければなりません。

本専攻における学位論文は以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たすものでなければなりません。

## 人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース【修士課程】におけるポリシーについて

本専攻の人間発達学コースは、人間の生涯発達研究上で重要な人間性の形成に関する基礎的問題、心理的適応と心の健康及び障害児に関する問題、また生涯発達の基盤となる感性や身体の健全発達の問題等を専門的に考究するコースである。併せて新しい時代の人間発達研究の学術的知見がもたらした総合生命観に基づいて、「新しいパラダイムによる人間についての発達観」の創出を試みる場となることを目指している。

### (1) 人間発達学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、発達基礎論、発達支援論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学、初等教育の教職科目についての履修をしていること、もしくは初等教育の教職経験を積んでいることが望まれる。

本コースを志願する者は、出願時に発達基礎論か発達支援論のいずれかの研究分野を選択することが求められる。

### (2) 人間発達学コースのカリキュラム・ポリシー

発達基礎論と発達支援論のふたつの観点からの統合的人間発達研究による、その全体像の把握を、本コースのカリキュラム構成に反映させている。

第一の観点は、脳発達の最新の知見を中心とした発達の普遍的側面の研究である。この普遍的側面からの研究を、カリキュラムの研究分野欄では、「発達基礎論」と命名し、新しい発達観の創出基盤を究明する。

第二の観点は、生命の主体者としての個人の側面からの発達研究である。個々の人間は、人それぞれに異なる。したがって心身の発達研究には、幾通りかのパターンまたはライフ・スタイルがある。そのなかでいかに健全な発達を追求・促進するかは、重要なことである。また、人間は生活している文化のなかで、発達を促進させる。なかでも発達初期での情操教育的要因の影響力は見逃せない。第二の観点は、これらを単に統合したものではなく、教育学、情報科学、児童文学、芸術等を通して、理論を踏まえた実践的教育の側面から「発達支援論」として論じることにより、人間発達理解の深化を目指し、情操教育を中心とした発達の文化的側面から人間の発達を解明する。このことにより、教職志向の学部生の受け入れだけでなく、現職の幼、小、特別支援学校の教員のレベルアップを図ることも意図している。

加えて、人間発達を学校等の教育現場で的確に深く把握するため、「専門関連科目」として心理学と教育学に関する実践的科目を配置している。

### (3) 人間発達学コースのディプロマ・ポリシー

本コースでは、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位（修士）を得るために、次のような手順を決めている。

- ・出願時に、発達基礎論か発達支援論のいずれかの研究分野を選択することを求める。
- ・入学前に研究計画書の提出を求め、これに基づいて入学後の研究指導教員を決定する。
- ・2年次の5月末までに研究題目を決定させ、この研究題目に基づいて、修士論文の中間発表会を行う。この場を、研究指導教員ではない教員からも広く指導を受ける機会とする。
- ・中間発表会における学術討論、教育指導等の内容を反映させる形で学位論文を作成させる。

本コースにおける学位論文は、以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本コースでは、所定の要件を満たし、必要な科目を履修することによって、幼稚園教諭及び小学校教諭の専修免許状を取得することが可能である。また、所定の要件を満たし、必要な科目を履修し、実務経験を一定期間体験すれば、学会連合資格「学校心理士」認定運営機構が心理教育援助サービスの専門家であることを認定する、「学校心理士」資格認定試験の受験資格を取得することが可能である。

## 人間生活学研究科 人間発達学専攻 臨床心理学コース【修士課程】におけるポリシーについて

本専攻の臨床心理学コースは、臨床心理士の養成に特化されたコースである。教育目標は、教育、保健、医療、福祉などさまざまな専門職と共同体制を組んで実践活動、研究活動、専門活動のできるスクールカウンセラー、産業カウンセラー、医療カウンセラー、司法・矯正カウンセラー、心理臨床開業等の人材を養成することにある。

### (1) 臨床心理学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、臨床心理論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学に関する科目についての履修をしていることが望まれる。

### (2) 臨床心理学コースのカリキュラム・ポリシー

本コースは臨床心理論、研究法分野、基礎分野、社会分野、精神・身体分野の5研究分野に計25科目の授業科目を配している。臨床心理論の13科目28単位は必修で、本コースに所属する院生のみを対象とするものである。他の研究分野の12科目は選択必修で、4研究分野にわたって、それぞれ2単位を選択し、8単位以上を修得することになっている。

このことによって、専門活動に関する科目、実践活動に関する科目、研究活動に関する科目をバランスよく履修できるようになっている。

### (3) 臨床心理学コースのディプロマ・ポリシー

本コースでは、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位（修士）を得るために、次のような手順を決めている。

- ・入学前に研究計画書の提出を求め、これに基づいて入学後の研究指導教員を決定する。
- ・2年次の5月末までに研究題目を決定させ、この研究題目に基づいて、修士論文の中間発表会を行う。この場を、研究指導教員ではない教員からも広く指導を受ける機会とする。
- ・中間発表会における学術討論、教育指導等の内容を反映させる形で学位論文を作成させる。

本コースにおける学位論文は、以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本コースでは、修了後に財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する「臨床心理士」の受験資格を取得することができる。本コースは、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から 2005 年 5 月に第 1 種大学院の指定を受け、2006 年 4 月に入学した院生から適用されている。

## 人間生活学研究科 食品栄養学専攻【修士課程】におけるポリシーについて

超高齢化社会を迎えつつあるわが国において、保健・医療・福祉・介護の領域では、高度に専門化された知識と洗練された技能を持った人材が求められている。本専攻では、リベラルアーツ・カレッジである本学の性格を大切にしながら、「食と健康」に関する基礎・応用研究、さらには臨床的な研究を進めることにより、栄養学の分野から保健・医療等の領域で、社会のニーズに応えることのできる人材の養成を目指している。

### (1) 食品栄養学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻では、本学の教育理念に共感し、栄養学を中心とした保健・医療等の領域で、自ら高いレベルの研究をこころざし、挑戦しようとする女性を求めている。また、幅広い知性・教養を持つための地道な努力を行い、俯瞰的な視野に立って、栄養学に関する諸問題を解決しようとする意欲のある学生を求めている。

本専攻での研究を志望する学生は、入学前に研究指導を希望する教員と面談して指導を受け、入学後の研究をスムーズに進めるための研究計画書を提出する必要がある。

### (2) 食品栄養学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、上記の社会ニーズに応えることのできる人材を育成するために、栄養管理学、栄養学、食品学の3研究分野を配し、基礎から応用・臨床的な教育研究が行える環境を整えている。栄養管理学分野では、人体生理機能および健康管理に関する教育研究を行い、栄養学分野では、臨床栄養や栄養教育に関する教育を行うとともに、栄養素の代謝や吸収障害についての基礎および応用的研究を行う。また、食品学分野では食品成分の機能性や調理技術、食文化などの分野に関して科学的な究明を行うカリキュラムを編成している。さらに必要に応じて、他専攻の関連科目も履修し、幅広い視野をもつ「食」のスペシャリストの養成を目指している。このスペシャリストとは、将来の栄養学を担う研究者・教育者であり、臨床現場でイニシアチブをとることのできる高度専門職業人としての管理栄養士である。

### (3) 食品学栄養学専攻のディプロマ・ポリシー

入学前に提出した研究計画書をもとに研究を進め、2年次第1期に行われる中間発表会で、進捗状況に関する評価および指導を受ける。その後、学位論文を提出し、審査会において最終評価を受けて合格する必要がある。さらに、カリキュラムを履修することにより所定の単位を修得し、修士課程の学生としての幅広い知性と教養を身につけなければならない。

なお、本専攻では別途必要な科目を履修することにより、栄養教諭の専修免許状を取得することが可能である。

## 人間生活学研究科 人間生活学専攻【修士課程】におけるポリシーについて

人間生活学専攻は、人間中心の生活学を総合的・専門的視座から教授研究し、深い学識と知見を授けて学術研究の発展に資するとともに、社会の要請に応える人材を育成することを目的とする。そのために、人間社会論、生活文化論、生活経営論、生活環境論の4研究分野が密接に連携し、横断的に学修できる教育研究システムをとる。本専攻のこのような特色は、各分野や分野間にかかわる諸問題を専門的に考究し、研究課題の開発と学問研究への寄与を行うことをねらいとする。さらには、人間及び人間生活にかんする学識と豊かな人間性を備えた、社会の創造に貢献しうる21世紀型市民リーダー、高度の専門能力を有した研究者、専門職員・教員をはじめとして専門的な業務に従事しうる人材の養成を目指す。

### (1) 人間生活学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻では、上述した教育研究上の目的に共鳴し、人間及び人間生活をめぐる問題意識をもって、多様な課題を探究し、研究課題に取り組もうとするリサーチマインドをもった人に広く門戸を開いている。あわせて当該研究分野に対する学修意欲の高い人を求める。

### (2) 人間生活学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻のカリキュラムは、人間中心の生活学という視座から、次のような研究分野を設けている。

- ・人間の本質追求と社会とのかかわり・社会福祉等の課題を考究する人間社会論分野
- ・人々の生活を規定する文化的要素を追究する生活文化論分野
- ・人間生活そのものの科学的分析と改善向上を課題とする生活経営論分野
- ・人間生活の行われる場としての環境条件を考究する生活環境論分野

以上4研究分野に計20科目の授業科目をバランスよく配し、キリスト教にかんする理解を深めるための授業科目も用意されている。

学生は、授業科目について30単位以上修得するうち、本専攻では、学生が所属する研究分野を含む3研究分野にわたってそれぞれ4単位以上を修得することになっている。また、学生は、研究指導担当教員の承認を得て、他専攻、コースの授業科目を8単位を限度として履修することが可能である。

### (3) 人間生活学専攻のディプロマ・ポリシー

学生には、必要な単位数と在学期間を満たし、高度専門職業人又は研究者としての基礎的問題解決力、課題探究力を身につけていることを認定する論文の審査と、専攻分野の学識を含めて総合的に審査する最終試験に合格することによって修士号が授与される。

そのために、本専攻では、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して学位を得るための手順を定め、教育研究指導體制をとっている。学位論文は、この手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本専攻では、所定の要件を満たし、必要な科目を履修することによって、中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状を取得することができる。